

(別表第1)

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

### II. 家族との支え合い

### III. 地域との支え合い

### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 3 月 11 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3871200329
事業所名	グループホーム鶴翠
(ユニット名)	1階ユニット
記入者(管理者)	
氏名	藤原 和哉
自己評価作成日	令和 3年 2月 1日

<p>【事業所理念】</p> <p>認知症という病気から自宅での生活が困難になったご利用者にも「もう一つの家」として頂けるような環境を作り、本来の自分らしい生活が出来る事を目的に支援を行います。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○課題 地域との交流を行い、ネットワークの形成と、地域との連携を密に行えるようにする。</p> <p>○目標 運営推進会議へ地域の皆様に参加して頂くこと。</p> <p>○取り組んだこと 運営推進会議の開催と行事企画を同時に行いご家族の参加人数を増やす。</p> <p>○結果 ご家族参加の企画を計画し、同日運営推進会議を開催することで、ご家族の参加が増えました。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所のリビングは大変日当たりがよく、日向ぼっこができるように置かれた席は利用者には大人気である。とても和やかな雰囲気の中、職員が丁寧な支援をしており、訪問調査日には利用者も自由にのびのびと過ごしている様子を見ることができた。現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、外出や面会制限などの負担が多くなった生活となっているが、そのような中でもできる限り工夫して、「利用者楽しく過ごしてもらいたい」という職員の強い思いが感じられた。法人内に多くの高齢者施設や事業所があるため、他事業所との交流も多く、法人・事業所内の職員研修も充実している。また、事業所には男性職員も多く、現在は外国人技能実習生の受け入れ協力もしている。また、職員は皆穏やかで優しいこともあり、職員同士の仲も良く、チームワークの取れた団結力の感じられる事業所である。</p>
---	---	--

## 評価結果表

項目 No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>								
<b>(1)ケアマネジメント</b>								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>普段の生活の中で本人様や家族様との会話を通じ、ユニット会で情報共有することで、本人様の意向や思いをくみ取り周知出来るように努めています。</p> <p>利用者様が過ごす中での意見や思いを聞きのがさないようにし、職員間での話し合いや家族様から情報提供をして頂いています。</p> <p>来苑時や運営推進会議、必要に応じて電話での家族様との話し合いの機会を設けています。</p> <p>日々の申し送りや毎月のアセスメント作成や、ユニット会で検討し記録しています。</p> <p>内部研修でアセスメントや認知症についての勉強会を行ったり、ユニット会で検討しています。</p>	○	◎	◎	職員は研修を通して、アセスメントについて学びを深めており、日常の支援の中で、利用者本人の思いや意向の把握に努めている。日記やメモをつける習慣のある利用者には、記載内容から思いや意向を把握することもある。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>ご利用前に担当ケアマネや家族様へ確認し、ご利用時には随時家族様や来苑者に確認し、日々、過ごされる中で本人様と話し、生活歴、人生観の把握に努めています。</p> <p>日々の暮らしを職員が観察し、変化があれば申し送りや、ユニット会で検討、情報共有を行い、情報をもとにアセスメントシートの作成をしています。</p> <p>申し送りで状態の把握や、ユニット会を通して対応の検討し、職員全員で共有しています。</p> <p>変化が見られる時は申し送りをし、ユニット会で把握し、対応を検討しています。</p>	◎	◎	◎	職員は家族や知人に、利用者のこれまでの暮らし方を聞いて把握している。また、職員は利用者が入居前に関わっていた介護サービス事業所の職員等にも積極的な聞き取りを行い、情報を把握している。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>日々の申し送りやユニット会で利用者様に変化があればその内容を毎月検討しています。</p> <p>職員や利用者様同士の談話や家族様の会話を通じ、アセスメントの情報入力しそれをもとに毎月検討しています。</p> <p>日々過ごされる中、問題点を発見し、ユニット会で検討し、結果などを申し送りやケア行動チェック表に記載しています。</p>	◎	◎	◎	把握した情報は、日々の申し送りや月2回のユニット会を活用して、職員間で共有している。また、職員は利用者ごとのケア行動チェック表を毎日記録しているほか、ユニット会で検討も重ねている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	短期目標をもとに毎月目標を決め、ケア行動チェック表を作成し、実行し、目標に沿ってレクリエーション計画を作成しています。	/	/	/	利用者ごとの担当職員を中心に毎月モニタリングを行うほか、モニタリングの内容等についてもユニット会の中で意見交換をしている。出された意見などを反映して、計画作成担当者が介護計画を作成している。また、法人内の介護支援専門員同士で意見交換を行い、参考にする場合もある。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人や家族様への聞き取りを行い、その内容を毎月検討しています。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	本人様の慣れ親しんだ衣類や道具を持ってきて頂いたり、家族様や来苑者様から以前の暮らし方をお聞きしながら生活が出来るように支援しています。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族様参加の行事や地域の行事に参加をし、近隣の施設との意見交換にも努めています。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケア行動チェック表を作成し、毎日記入して頂いています。	/	/	◎	◎ 毎日職員は、利用者ごとのケア行動チェック表を記録しているため、利用者ごとの具体的な計画やサービス内容を十分に把握している。また、職員の気づきやアイデアは、ケース記録や日誌に記録を残すほか、申し送りやユニット会の中でも伝達し、情報共有ができています。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	ケア行動チェック表に記録し、その内容を毎月検討しています。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	ケース記録・申し送り帳・日誌を作成し個別に記録しています。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	ユニット会議記録、アセスメントシートを作成しています。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的に見直しを行い、毎月アセスメントシートの作成をしている為、必要に応じて見直しを行っています。	/	/	◎	定期的な介護計画の見直しは、6か月ごとに行っている。利用者ごとのケア行動チェック表を確認するほか、毎月モニタリングも行い、職員は利用者の現状確認ができています。また、状態が変化した場合には、必要に応じて、随時計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	利用者様担当を決め、アセスメントシートの作成を行い、それをもとにユニット会を行い、毎月の検討記録を作成しています。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	アセスメントシートの作成をしており、必要に応じて家族様との連携や主治医との連携を行い、随時変更を行っています。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月、職員会・ユニット会・担当者会を開催し、毎日の申し送りを通して必要であれば急遽検討会を行うようにしています。	/	/	◎	月1回、両ユニット合同の職員会を開催するほか、月2回ユニット会を開催している。担当者会議も月1回開催しており、会議録は職員に回覧され、確認後には押印やサインをする仕組みづくりをしている。また、職員会の司会と会議録の作成は、職員全員が順番に担当し、会議は職員全員が発言できるよう工夫している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職員全員が主役となり意見が言える環境を作り、会議に参加できない職員は、事前に書類等で検討内容や気づきの意見を記入する書類を作成して、会議内容は後日全員が閲覧できるようにしています。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	会議に参加できない場合は事前に意見書を作成してもらい、毎月開催しているユニット会にてその内容も含め検討し、その内容も含めた報告を毎月1日に開催する職員会にて行っています。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を作成しており、後日確認、閲覧印を押印し全員が共有できるようにしています。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送り帳を作成しそれを使用した申し送りを日々行い、重要事項は赤で記入するなどし、情報を確認、共有して支援しています。	/	/	◎	日々の申し送りのほか、申し送りノートを活用して、確実な情報共有に努めている。会議録等の書類に残して回覧するほか、口頭での伝達も行われている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送り帳と共に日々の口頭で徹底をはかり、確認書類に関しては確認印を押し、面会簿、外泊、外出、受診記録用紙を整備し、随時記入しています。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	個人に話を行い、家族様へ趣味や得意なお聞きしており、レクリエーションや行事に取り入れ、本人様の趣味の道具を持ってきていただく等支援しています。				日常的に、職員は利用者が選択できる場面を作れるよう努めている。利用者の自己決定できるよう、自由に好む場所で過ごしてもらえるよう配慮している。また、職員は利用者が積極的な発言や思いの表出ができるよう、言葉かけを工夫している。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	毎日の更衣やレクリエーション時に、本人様と一緒に衣類や物事を選択したり、トイレ誘導などの介助時も随時確認を行ってから支援させて頂いています。			◎		
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	認知症介護に関する勉強会を行い、利用者様への言葉かけの方法や支援の仕方を勉強し、それらを通して得た情報をもとにユニツ会や検討会を行い、納得した暮らしが出来るよう支援しています。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	随時本人様の意思確認を行い、申し送りを随時確認、共有しており、無理強いすることなく、本人様の希望や要望に応じた対応が出来るように支援しています。					
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	「ありがとう」を大切にしたい言葉かけを行い、随時接遇やコミュニケーションの研修を行い、職員の質の向上を行っています。					◎
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	◎	状況に応じて筆談や日記を利用して意思の確認に努め、本人様の表情や、しぐさの情報を共有し、訴えたいことや何かある場合にはすぐに対応するようにしています。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	尊厳をテーマに定期的に勉強会を行い、羞恥心に配慮した言葉かけの仕方、排泄介助時、入浴介助時等の配慮や、一人になりたい時などに使用する空間の設置、パーソナルスペースや、職員の表情等、研修しています。		○	○	◎	法人・事業所として、接遇やビジネスマナー、コミュニケーション等の研修会を実施しており、職員は利用者を敬い、常に適切な言葉かけや態度で支援できるよう努めている。また、居室入室時の声掛けやさりげない支援をするなど、日頃から職員が習慣が身に付き、実践している様子を窺うことができた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	出来るだけ、目立たずさりげない声かけが出来るよう心がけ、本人様が嫌がるような内容については別の単語でお誘いし、個人的にお話させて頂く様にし排泄や入浴介助等、プライバシーを考慮し対応しています。				◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレ時や入浴時、羞恥心に配慮した声かけを行い、トイレ時に基本的には閉めているが、「扉を開けておいて下さい」と言われる方もいる為、その場合は職員が間に入り他者様から見えないように配慮しています。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室の必要な時のみ入室し、ノック及び声かけしてから入室するように心掛け、洗濯物の整理やベントメイキングの際には、本人に了解を得てから入室させて頂いています。				◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	勉強会にて個人情報の取り扱いやプライバシーの保護について研修しており、個人が特定できる資料の施設からの持ち出し禁止やUSB等外部機器の使用禁止徹底しています。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	調理や洗濯などの家事を一緒に行う事で、職員も利用者様も一緒に共同生活を行い、職員がすべてをこなすのではなく、出来ることはして頂く、わからないことは教えて頂く様にしています。				事業所では、利用者のアセスメントが十分にできているため、未然にトラブルを防ぐ適切な支援ができている。共有スペースには十分な広さがあり、小上がりの畳スペースは障子戸も閉めることもできるため、利用者が一人で過ごしたい時などには有効に活用されている。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	勉強会で研修をとして、グループホームの意味や共同生活の大切さを学んでいます。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	日々、申し送り等で情報共有し、利用者様同士の関係の把握に努め、食事の座席や共有空間での座席等配慮し、共同生活上での問題がある場合には職員がすぐに対応する事で、トラブルにならないように努めています。他者との関係を築き難い利用者様には職員が仲介し関係の構築を支援しています。					◎
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	すぐに対応しており、職員が間に入ることで解消し、それでも困難な場合は職員同士で協力し対応しています。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	本人様の意見をお聞きし、来苑時に家族様に聞くことにより出来る範囲で把握しています。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	本人様の意見をお聞きし、来苑時に家族様に聞くことにより出来る範囲で把握しています。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	お墓参りや法事、お祝い事や散髪、食事など、家族様の協力を得て可能な限り支援し、定期的にはがきを送って頂くこと等を支援していきたいです。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会にはいつでも来て頂けるよう掃除を行い、環境の整備に努めています。また、来苑された際にはくつろいだ中で過ごして頂けるよう居室での面会など、プライベートにも配慮しています。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	年間の行事企画に基づき、各月の担当者が企画して外出していただくようにしています。また、希望がある場合は中庭の散策や、他階への移動も行っており、可能な限り対応できるようにしています。	×	○	◎	利用者の状態に関わらず、同敷地内にあるケアハウスとの間にある中庭で、毎日散歩をしている。事業所前にある道路の交通量は多く危険なこともあり、利用者は広い敷地内を歩きながら、併せて日光浴もしている。敷地外へ出掛ける際には車を使用しており、秋には紅葉狩りに出掛けることができた。また、受診等で家族と一緒に外出する利用者も多い。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	◎	当事業所だけでなく、他事業所の企画にも参加や、外出の機会を設けています。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	リフト車を利用して外出を企画し、車椅子使用の方や麻痺のある方も不自由なく参加して頂き気分転換を図っています。			◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	本人様が希望された時は、病院受診の際に外食される時や、お墓参り、自宅や近所への外出をされる時、お祝い事や近隣の行事に参加して頂ける様企画し支援しています。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	定期的に勉強会を行っており、認知症に対する知識やコミュニケーション技術等を研修し、その一環としてアセスメント方法等、ケアに関することも取り入れ、ケアマネと協力して対応できるようにしています。				できることやできそうなことについて、ゆっくり利用者自身にしてもらえるよう取り組んでいることもあり、職員は口や手を出しすぎない習慣が身に付き、見守りや待つ支援が徹底されている。訪問調査日には、利用者の食事介助や誘導の場面で、職員が見守りながら支援をする様子を窺うことができた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	認知症高齢者の身体機能に関する研修を行い、定期的に行う事で随時理解できるようにし、普段の生活では、利用者様と一緒に家事や生活を行う事で、無理なく本人のペースに合わせた支援を行い、レクや行事にそれらを取り入れ、日常的に機能訓練を行っています。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	「できること、できそうなこと」は静かに見守りを行い、十分にできないことについては、協力して一緒に行うようにし、特に食事や排せつ、入浴に関しては、本人のペースに合わせた支援を行い、手伝いすぎないようにしています。	○		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	日々の申し送りやユニット会に話しあい、本人に合った役割や出番を考えており、食器拭き、お茶配り、テーブル拭き、食事の準備を行っています。				編み物や将棋が得意な利用者には、家族に自宅から道具を持って来てもらい、職員は趣味に熱中できるような環境づくりも支援している。バスケットボールが得意だった利用者には、職員が手作りのゴールを設置したり、両ユニット合同でレクリエーションを行う日を設けたりするなどの工夫をしている。また、「利用者にはそれぞれのペースで毎日を楽しんで欲しい」と願う職員の思いが、利用者の暮らす様子からも窺うことができた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	誕生会や運動会等一人一人が出番になり楽しめる行事を企画し開催し、カーテンの開け閉めや食器拭き等、無理なく役割を担って頂けるよう好んでされていることを把握し、支援しています。	×	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	◎	他事業所へ赴き、鶴翠音楽隊として合唱を行っています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	自分で出来る方には、自由に衣類を選んで頂き、着用して頂き、状況に応じて利用者様と職員と一緒に衣類の選択をしています。				日頃から、利用者の整容に限らず、職員がさりげない支援や声掛けをすることができている。服を選んで着ることが出来る利用者には自らしてもらい、乱れが見られた場合には、職員がさりげなくフォローしている。現在はコロナ禍において、敷地外への外出制限もあるため、毎月訪問理容に来てもらい、髪型を整えている。また、訪問調査日には、全ての利用者がよく似合った服装や髪型で清潔感があり、帽子などこだわりの装いもしている利用者もあり、快適に過ごしている様子を見ることができた。		
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	家族様に協力して頂き、本人の好みのものを用意するなど配慮し、季節に合わせた衣替えを行っています。						
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	2つのものを用意し、声掛けを行い一緒に選ぶことで了承を得るよう対応しています。						
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	家族様の協力を得、色や形など複数用意し、自分で選べる方は自分で更衣して頂き、出来ない方はどちらか選んでもらうことで対応しています。						
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	居室にお連れし個別に対応し、ジェスチャーを交え伝えることで支援し、汚れた場合には随時更衣して頂いています。		○	○		◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	理容院の方に来ていただき、定期的に散髪を行い、個人の希望があれば馴染のお店に行っていたるように支援しています。						
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	服装の乱れがあればすぐに整える様心がけし、随時整容を行い支援しています。						
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	内部の勉強会を通し職員全員が学習し、毎月給食会議を行っています。				バランスの取れた献立を業者の栄養士が作成し、途中まで調理された状態で食材が事業所に配食されている。ユニット内のキッチンで、食材を温め直したり、盛り付けなどの最後の仕上げをしたりしている。お菓子づくりやそうめん流しなど、職員と利用者が一緒に調理する日も設けている。メニューは利用者の要望や好み等を確認し、毎月開催される給食会議で検討しているほか、利用者一人ひとりの食事形態についてもユニット会の中で話し合い、業者に話し合った内容を伝達できている。お箸は自宅から持ってくる利用者もいるが、食器は事業所で用意した陶器の物を使用している。また、職員は利用者の見守りや声かけを優先し、一緒には食事をしないスタイルをとっている。		
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	利用者様の状態に合わせ、台拭きや食器拭き、お盆拭き、料理のお手伝い、お茶配りなどをさせて頂いています。					○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	食器拭き、台拭き、お盆拭き等をしていただき、お礼を伝えることで笑顔が見られます。また、ご自分から「なんでも言っよ」と手伝って下さる利用者様もいます。						
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入所時の情報提供、主治医意見書、家族様との情報交換、日頃の食事の様子などからモニタリングし、必要であれば看護師や主治医にアドバイスを頂く様にしています。						
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	管理栄養士のもと献立は組まれており、季節に応じた食材の使用や、盛り付けの工夫にて匂いや見た目も楽しんで頂けるように支援しており、毎月の給食会議にて様々なことを検討しています。						○
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	◎	むせ込みで誤嚥しないように、家族様や職員と相談しながら刻みに変更したり、スプーンからお箸、刻みから普通食へと変更したりし状態に合わせて召し上がって頂いています。						
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	持ちやすい、食べやすい食器を基本とし、希望のある利用者様は家族様へお願いし、なじみのある物で対応しています。						◎
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食事の際に利用者様と一緒にいることで、介助やサポートが必要な方への対応や、食事状況の観察をして随時気づきや問題点を申し送るようになっています。						△
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	午前中のレクリエーション時に献立の発表を行ったり、随時会話をし、共有空間にて調理することで、匂いや盛り付けを確認することができ、いつでも見られるように配慮しています。			◎			◎
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	管理栄養士によりバランス、カロリーは確保されており、栄養士と情報共有することで栄養の面からも支援し、水分摂取量は本人に合ったペースや方法で摂取して頂いています。						
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	刻み食やミキサーの使用、又、数回に分けることや見た目の工夫で食事量の確保に努め、水分の確保が出来るように家族様に好みの飲み物を持ってきていただくことや、提供の時間をずらす等して対応しています。						
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りが無いように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	毎月1回ユニット会で話し合い、一人一人に合った形態で美味しく食べて頂けるように工夫し、栄養士との連携で栄養の面からも支援し、毎月給食会議を行う事で様々なことを検討しています。						◎
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理前の手洗い、手指消毒、食器の熱乾燥、定期的な調理器具の消毒、水質検査を行い、定期的に冷蔵庫の中のチェックを行う事で衛生管理を行っています。						

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	講習や研修にて学び、それらの必要性や重要性について理解できるようにしています。				毎食後に、利用者は居室にある洗面台で歯磨きを行っている。介助が必要な利用者には、職員が見守りやできない部分の介助をしている。毎月行うモニタリングの中でも、利用者一人ひとりの口腔内の状態を確認し、記録に残している。痛みや不具合があった場合は家族に協力してもらい、歯科医を受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	義歯のつけ具合や嚥下状態を常に把握するようにしており、いハンのあった場合はすぐに家族様と連携や協力医療機関のアドバイスをもらうようにしています。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	講習に参加し研修を行う事、又、協力医療機関へアドバイスを求める等して、個人に合ったケアを行っています。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	出来る利用者様にはご自分で義歯の清掃を行って頂き、難しい場合は職員がブラッシングをした後に洗浄剤で消毒を行っています。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後に口腔ケアをして頂けるように支援しており、必要に応じて職員が付き添いや介助を行っているが、可能であればご自分で行って頂き、随時口腔内のチェックを行い、異常があればすぐに対応するようになっています。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	毎日歯磨きをしており義歯の洗浄も行っています。痛みの有無も確認しており、訴えや異常があった時には家族様や協力医療機関に協力していただき、受診をお願いしています。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	内部、外部の研修で学習しており、出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援しているが、状況に応じてユニット会で検討し、パンツやパッドの対応等本人に負担の少ない方法を考えている。				ユニット内に3か所トイレがあり、手すりも設置されている。職員は排泄状況のチェック表を付け、利用者の状態に合わせた適切なタイミングで声掛けやトイレ誘導等を行っている。排泄時にトイレの戸を占めるのを嫌がる利用者には、職員が周りから見えないよう目隠しする工夫をしている。また、排泄の支援に関しても、月2回実施するユニット会や日々の申し送りの際に、職員間で話し合い共有されている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	体調不良や病気を引き起こす原因であり、運動不足や薬の副作用、水分の不足などが原因であることを研修している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	本人の排泄間隔で声掛けを行っているが、定期的な時間でも声かけし、トイレ誘導している。排泄チェック表も活用して間隔やパターンを理解できるようにしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	基本的にトイレ誘導を行っているが、パンツの汚れや、失禁などを考慮し、家族様の協力を得て、利用者様にとって現在一番適切なおむつ類は何かを検討し、随時変更しながら対応している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	水分摂取量の確保や、体力の低下を防ぎ、簡単な運動をレクに取り入れるなどして原因を見つけ解決に取り組んでいる。要因が病的な時は病院受診を視野に入れ検討している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排尿の間隔を排泄表を参考にして把握し、利用者様の行動や間隔にて声かけし、パッドに汚染が無いよう早めの誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方向的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	ご本人の意見を取り入れると共に家族様や看護師と連携し、ユニット会での検討を行ったうえで一番適切な対応を取れるようになっている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	日中、夜間、状態や調子等により随時使い分けており、現在の状況を悪くしないように支援している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	毎日の体操とストレッチ等の運動を行い、食事の時間や睡眠時間の確保、本人様のパターンに合ったトイレ誘導などで、リズムよい生活が出来る様になっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	出来る限り一人一人の体調や好みに合わせ対応しており、温度や気温等にも気をつけ、本人の意向に沿って入浴をして頂いている。また、本人希望や拒否などは出来る限り尊重し対応している。	◎		◎	利用者は、週2回以上、午前中に順番に入浴できるよう支援している。入浴が苦手な利用者には、午後からの入浴や別の日に変更するほか、利用者の希望にできる限り要望に応えられるよう工夫して支援している。また、利用者の重度化にも対応できるよう1階ユニットの浴室には、座位のまま入浴できるタイプの機械浴槽を活用して、安心安全に入浴してもらっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	本人様とのコミュニケーションを図りながら、リラックスした状態でゆっくり入ってもらっている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自身で出来るところは洗っていただき、困難な場所の洗身や、移乗時など危険が伴う場合には、状態に合わせて介助し、安心して入浴できるようにしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	拒否される方は日にちや時間をずらして声かけしたり、職員を交替したり、別の職員の声かけで出来る限り入浴して頂いており、随時原因分析と、成功例の共有をユニット会にて行っている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にはバイタルチェックを行い、表情なども確認しており、数値や状態によって看護師と連携している。入浴後も表情観察や水分補給を行い、必要に応じて看護と協力している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者から申し送りを聞いたり家族様に聞いたりして睡眠のパターンを把握し、ユニット会等で共有している。				ほとんどの利用者は、夜間安眠できている。時には、夜中に短時間の睡眠で目を覚ます利用者もいるが、職員が話し相手をするなど、上手に対応をしている。また、両ユニットで睡眠剤を服用している約2名の利用者もいるが、主治医とも相談ながら、職員は日中の過ごし方を工夫するなど、更なる減薬につながるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	毎月のユニット会で話し合い、原因を追究し快適に睡眠していただくよう、食後の臥床や日中の声掛けや運動を取り入れ、夜眠れ強うに取り組んでいる。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中の生活で運動や臥床を取り入れ、申し送りや行動計画に伴って把握し、随時ユニット会で検討、対策を行っている。そのうえで困難な場合は家族様や医師に相談し、随時連携を取ることによって、基本的には服薬に頼らない支援をしている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	定期的に寝具の洗濯を行い清潔を保つことや、共有スペースに昼寝や休憩が取れる場所を確保することで支援している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	家族様からのハガキが届いた時には本人様に渡し、いつでも使用できるように共有空間に電話を設置している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	家族様宛の手紙を書くレクを取り入れ、本人様が家族様に伝えたいことがあった場合は聞き対応している。希望があればいつでも連絡できるように支援している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ご利用者の拒否がない時は、自分で電話を掛けられるようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙やはがきが届いた際には本人に渡し場合によっては文章を読み上げ、返信等の希望を確認している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	毎月の施設での暮らしについての様子を届け必要な場合には電話をお願いしている。また、随時連絡等して頂けるように日頃から協力をお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	認知症に関する勉強会も行っており、金銭の管理などが認知症にどう影響するののかも理解できるようにしている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	買い物に行きたいと言われた時は、ご家族に協力をお願いし、一緒に行ってもらうようにしている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物をする時は、利便性を考え、近隣で馴染みがある所を紹介するようにしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	買い物は家族様として頂くようお願いしていて、施設では金銭の保管をご遠慮頂く様になっている。急遽の支出がある場合は、事業所の小口現金より立替をするよう便宜を図ることもある。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	買い物は家族様として頂いて、施設では金銭の保管をご遠慮頂く様になっている。急遽の支出の際は、事業所の小口現金より立替をするよう便宜を図ることもある。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	預かり金の管理規定を整備しており、説明し納得してもらったうえで証明書に署名・押印をお願いしているが、現在は利用者様同士のトラブルがあったこともあり、家族様にご遠慮頂く様をお願いしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	家族様や本人様の意向を聞き入れ、可能な限り希望に添えるように対応している。また、ご利用者様の要望は随時家族様に相談し、協力してもらいながら支援するようにしている。	◎	◎	家族の準備した食事を届けてもらったり、行きつけの店からコーヒーを差し入れてもらうなど、管理者等は「利用者や家族の要望にはできる限り応えていきたい」と考えている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
<b>(3) 生活環境づくり</b>											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	施設の隣に駐車場を確保することや、中庭の植物の手入れ、玄関の掃除、建物周辺の掃除を行い、不快感を与えないようにして、気軽に来て頂けるようにしている。	○	○	◎	玄関周りは掃除が行き届き、整頓されている。緑の多い中庭に面しており、温かい雰囲気となっている。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	◎	季節に合わせた掲示物やイベントに応じた飾りつけ、利用者様と一緒に作った物を置いたり展示して、目で見て楽しめる空間にしている。また、畳の部屋の用意、プライベート空間としての場所の整備、ソファを用いたくつろげる場所を用意し、利用者様が思い思いに生活できるような環境を整えている。台所はオープンにし、利用者様と一緒に家事が行えるようにしている。	○	○	◎	共用スペースは、職員が毎日丁寧に掃除をしており、とても整頓された衛生的な空間となっている。広々としたリビングは中庭に面しており、大変日当たりが良く、窓際での日向ぼっこが日課となっている利用者も多い。季節が感じられる掲示物や小物をさりげなく置いてあるほか、利用者と一緒に手作りした折り紙の作品も飾られている。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除を徹底し、定期的な空気入れ替えや、状況に応じてカーテンやブラインドを利用するなど、環境整備に努めている。					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節に応じた花や果実、5月にはこいのぼり、9月には十五夜のだんご、ススキ、12月にはクリスマスツリーなどその時期の特徴を生かした展示や掲示を行う事で、利用者様と一緒に季節を感じ、色やにおいなどの五感で楽しめるように努めている。					◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	話が出来るようソファの設置、気の合う同士での座席配置、中庭に面した場所に個別の場所を用意し、一人一人が思ったように過ごせる環境を整備している。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	排泄時には扉を開け他者から見えないように配慮している。利用者様によって開けておくことを希望されることもあるので、職員が間に入るなどして対応している。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	持ち物に制限はなく使い慣れた物を持ってき、自由に使っていただいている。随時利用者様の希望を聞き、必要に応じて家族様へ協力をお願いしている。	○		◎	居室にはクローゼットがあり、ベッドや引き出しも用意されている。利用者は自宅からお位牌など思い出の品や家具を持ち込むことができる。また、写真やカレンダーを飾り、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせる居室となっている。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	各居室、トイレ等に表札をつけ、迷わず目的の場所にご自分で行けるよう工夫している。また、職員が手伝いすぎず、一緒に家事や行動を行う事で、利用者様の出来る事を見つけて、自立へ向けた援助を行っている。				◎	居室のドアには表札としてネームプレートが貼っており、必要に応じて、目印になるものを追加して掲示している。居室とトイレのドアの区別が難しい利用者には、ピンクのリボンの飾りをつけるなど、利用者の状況に応じた工夫もしている。また、訪問調査日には利用者がスムーズに移動できるよう、職員がヒントとなるさりげない声掛けをしながら、導く様子を見ることができた。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	衣替えやクローゼット内の整理等、家族様と連携して、お気に入りの物や、本人様に合わせた衣類の数や種類、家具の設置場所などを検討している。また、トイレや居室に目印をつけ、混乱しないように努めている。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	◎	音楽鑑賞のための機器、ビデオデッキ、雑誌、新聞、急須と電動ポット、コップや食器類等、いつでも手に取り使用することが出来るように準備している。また、居室には写真等、なじみの物を持ってきて頂いたり、レクリエーションを利用して自分で作った作品を飾るなど、利用者様の意欲を触発するように支援している。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	◎	職員会・ユニット会等で勉強会を行い、職員の理解を深めているが、施設前の道路の交通量が多いこともあり、入所時や運営推進会議を利用して家族様、地域の皆様に、十分な説明をしてご理解を頂いている。	◎	◎	○	事業所の建物は交通量の多い道路に面しており、利用者の危険性や防犯面からも、ユニットの出入り口は施錠されている。鍵をかけることの弊害について職員は理解しており、外に出ようとしている利用者には職員が寄り添い、中庭に出て散歩をするなどの対応をしている。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入所時や運営推進会議等で家族様・地域住民の方々と話し合い、ご理解頂いている。利用者の安全や地域住民の不安の解消のために、施錠を要望されるご家族や住民も多いが、できる限り自由な暮らしができるよう配慮している。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	◎	事業所前の交通量が多く危険性があるので注意するように地域住民の方からアドバイスを頂いており、職員がしっかりと見守り、行動の観察を行う事により利用者様の安全を確保することが出来ている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	個人ファイルを作成しており、いつでも閲覧可能にし、利用者の変化に対応できるようにしており、変更点については随時記入し変更している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者様の表情や行動観察を行うと共に、定時のバイタルチェック、随時のバイタルチェックを行い、すべて記録に残すように見られるようになっている。また、随時申し送りを行い情報の共有して、異常の早期発見できるように注意している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	入居者の日々の変化については、看護師に報告し、対応について話し合っており、医療連携室の相談員やかかりつけ医との連携を図るように努め、入院が必要な場合は適切な入院につなげる等の努力をしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	受診は、ご本人及びご家族が望まれる病院で行って頂いており、その都度必要な情報を提供して、スムーズな検診等が行えるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	協力医療機関の往診があるほか、利用者様個々のかかりつけ医へも家族の協力を得て受診が継続出来る様になっている。家族が遠方で協力が困難な場合は、介護タクシーを予約したり、ヘルパーの同行を依頼し、受診出来る様になっている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	定期的に通院を行って頂いており、日頃の状態変化については、ご家族への連絡、相談等を行い、必要に応じて病院受診をお願いしている。その結果については、都度職員も含めて情報を交換し、受診報告書を作成して、医師、家族様との連携が出来るように努めている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には随時看護師や医療連携室に施設内での生活状況、服薬状況、既往歴、ADL等の情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院先の医療関係者と連絡を密に行い、安心して治療できるように努めている。また、出来るだけ早く退院出来る様、情報交換を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	定期的に行っている運営推進会議を通し、医療連携室の相談員等との連絡を密に、病院関係者との関係づくりを行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	入居者の日々の変化については、副主任に報告し、副主任から看護師に報告、対応について話し合っている。又、必要に応じて協力医療機関や主治医へ相談を行い、アドバイスを頂いている。家族様への報告や医療機関などへの相談も含め、申し送り帳等を通じユニット内での情報共有に努めている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間相談できる協力医療機関や看護体制を整えており、入居者に安心して過ごしていただいている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々のバイタルチェックや変化、異常時には上司に報告、記録を残し看護師と連携し、早期に治療が開始できるようにしている。又、毎日決まった時間に上司に日々の様子について報告を行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬は看護師、管理者が管理を行っており、目的や副作用についても理解している。また、どの職員でも理解できるように入居者の服薬の一覧表を作成している。。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	飲み忘れや誤薬が無いよう服薬業務に関するマニュアルを作成しており、看護師と連携し、落ち着いて業務にあたるようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	服薬後にはフロア等でゆっくりして頂き、表情や行動を観察して。また、必要に応じて申し送りをを行い、情報を共有し、緊急時の対応マニュアルを整備している。。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	協力医療機関や主治医へ情報提供を行い、利用者様の状態の変化等を記録し、必要に応じて看護職に相談・情報提供できている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	契約時に重度化した場合の事業所としての対応や法人としての対応について説明を行っている。また、看取り指針を整備しており、段階的に早めに家族様と話し合いを行うように支援している。	/	/	/	事業所には、「重度化及び看取り指針」があり、契約時に職員が利用者や家族に、法人・事業所として、それぞれの段階で対応できることを説明している。利用者の状況が重度化した場合には、家族や主治医等の関係者と話し合う機会を持っている。また、事業所として看取りは行っていないが、できるだけ事業所で長く暮らし続けられるよう、機械浴槽を設置するなどの工夫をしている。事業所では対応できなくなった場合は、利用者は病院や法人内の別の施設へ転院している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	◎	重度化の場合、利用者個々の状態に最適なサービスが受けられるよう法人内で話し合いの機会を定期的に持ち、チームで支援に取り組んでいる。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期については現在対応しておりませんが、随時、重度化した利用者様への対応について、随時ユニット会や職員会議で対応方法を考え、必要に応じて勉強会を開催している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	看取り指針を整備し、契約時に事業所として出来る事を十分に説明し、理解が得られるように努めている。又、出来なくなった事について定期的に家族等に連絡を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	看取り指針に従って、グループホームでの生活が困難になる前に、段階ごとに家族様と話し合いや相談の機会を作り行っている。また、特養等への住み替えや医療機関への相談等、早い段階でご家族と話し合い、本人や家族様が不安に思わない様に対応している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	コロナウイルスが流行していますが、病院受診等に、傾聴を行い、ご家族様の心情の理解に努めている。必要であれば話し合いを行い、相談に関しては随時受け付け、すぐに対応している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	マニュアルを各フロアに設置し職員がいつでも確認できるようにしている。また、感染対策委員会設置し、随時情報収集と派生状況の報告等を行い、時期なども考慮して内部研修を年に2回の感染症に関する勉強会を行い、対策を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	職員会の勉強会を通して学習を行っている。随時職員が確認できるように、マニュアルの整備を行い対応している。又、看護師と連携しながら、その指示のもと対応できる体制を取っている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	3か月に一度、感染対策会議を開き、施設の現状の報告、愛媛県や近隣の状況報告の把握に努めている。また、予防や対策を話し合い地域の状況の把握に努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	本部との連携を常にとり情報を共有し随時対応し、また、感染対策委員会の構成員で情報収集を行い、感染拡大の防止や予防に努めています。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	トイレ時、食事前には手洗い及び手指消毒を徹底し、食後の口腔ケアも声掛けにて徹底実施しています。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	本人の気持ちを把握し要望を聞き言葉にならない訴えは表情をくみ取るようにし、それらを申し送りやユニット会にて共有し本人の意思や思いをくみ取れるように、家族様にも情報提供等の協力をして頂いています。	/	/	/	現在はコロナ禍のため、家族との面会制限もあり、行事に参加することはできていないが、「ニコカク新聞」を送付して、利用者の日常の様子や表情が伝わるよう工夫しているほか、職員から電話を掛け、家族との情報共有に努めている。最近では職員の異動がないこともあり特段の報告事柄はなかったが、事業所からのお知らせも新聞を活用して掲載している。また、コロナ禍の終息後には、家族が行事に参加しやすいよう、運営推進会議と同日に行事を開催する工夫なども検討している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	居室でゆっくり談話して頂けるよう配慮し日頃の利用者様の様子などをお話し、行事やレクの様子を普段から写真に撮っており、その様子を見て頂くことや行事参加の呼びかけにて関係作りを行っています。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事と一緒にご家族にも見学や参加をいただけるような機会を作っている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月家族様に職員よりお手紙を送っている。また、日頃の様子や行事の時の写真、ニコカク新聞(広報誌)を作成しており、随時閲覧できるように掲示、案内を行っている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	運営推進会議などを通して家族様の声にお答えし、日ごろの連絡や、来苑時の話を通しても様子や健康状態などを伝えることで、連携を図っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	本人への理解を含め面会又は電話などで今までの生活の様子など聞くことを密にし対応している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	家族様に都度報告し、一つひとつ家族様の理解をいただきながら協力をしていただくように努めている。	x	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	行事企画にて交流できる機会を作るように努めている。家族参加型の企画を立てる事で、ご家族同士の交流を図っている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	常に看護師や上司に相談の上、家族様に説明し対応策を話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会時や病院受診時、家族様より意見や希望を聞きだせるよう声かけを常に行なうように努めている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	随時直接説明しており、必要であれば同意書にて了解を得る事で、納得して頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居の際には事前に家族様と話し合いを行い、納得して頂いたうえで退居の流れとなっている。又、その際に次の入居先の相談等も行い、入院等であれば入院先の相談室とも連携を取っている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金の詳細を文書化しており、文書をもって説明、同意書に署名捺印を頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	運営推進会議を用いて地域の方に施設の運営状況や目的等の説明を行っている。	/	○	/	利用者と職員と一緒に地域行事へ参加したり、複合施設の盆踊りなどの行事に地域住民が参加協力をしたりするなど、以前から地域との交流は継続できている。現在はコロナ禍のため、地域行事を中止したり開催規模を縮小したりして交流は減っているが、職員は「早くまた以前のように地域に出て行きたい」という思いを強く持っている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の皆様へのあいさつ等を行っている。また、近隣施設との合同行事の企画及び参加、ご家族や地域の皆様にも参加頂けるように働きかけている。獅子舞やおみこしに来ていただくこともある。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	近隣の施設から行事の声掛けを頂き、参加するようになっている。また、各地域の居宅とのつながりを切らないようにしている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	家族様やその関係者様の来訪がある。(現在感染対策により面会を控えている)	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	隣接施設の利用者様との交流があり、ドライブに出かけた際には率先して挨拶を行っている。職員とご近所様の挨拶は日常的に行っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	行事にて外出やボランティアの受け入れを企画している。また、近隣事業所や地域の皆様を招待した企画を行っている。(現在は感染対策により控えている)	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	毎月の行事企画にて他施設との交流や、公園でのお茶会、お寺などの見学等、季節に応じた資源の利用をしている。ご家族同伴で馴染みのお店に行っている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	婦人会や理美容店の協力を得ることで利用者様の生活、行事企画に取り入れ、地域との関係作りを行っている。また、近所のコンビニが職員の顔なじみのお店となることで、協力して頂けるように働きかけている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	家族様、民生委員、地域包括支援センター、利用者、近隣病院施設の医療連携室、近隣介護施設の職員等の参加がある。(現在は書面での取り組み)	○	/	◎	運営推進会議には、家族や地域住民、市担当者など、様々な立場から参加してもらっていたが、現在はコロナ禍の対策のため、書面による会議報告となっている。管理者等は、平日の会議開催にすると、働いている家族は参加が難しいこともあり、開催日程の再検討が必要と感じている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	運営状況、利用者様の状況、毎月の行事企画等の報告を行っており、自己評価や外部評価の報告に関しては口頭での報告と、いつでも閲覧できるように設置している。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	家族様や、民生委員、医療連携室からの意見や助言を求めており、感染対策、行事等様々なことに取り入れている。家族様からの要望や意見、提案に関してはすぐに対処し、随時報告している。	/	△	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	敬老会や地域を招待しての行事、ボランティア招致の際など、家族様も一緒に参加できるように運営推進会の開催を行っている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	何時でも閲覧可能なようにしており、随時、長寿介護課へ公開している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	ご利用者様にも一つの家であるような施設作りを行う事、それによって本来の自分らしい生活が出来るように支援していくことを理念の一つにしています。家族や利用者だけではなく、職員や地域の皆様も含めた家族であるような環境作りに取り組んでおり、会議等で共有出来るようにしている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	入所時の説明や、施設見学に来られた際に説明を行っています。また、来苑者がいつでも閲覧できるように理念を含めた事業計画を作成しており、随時見て頂いている。	○	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	代表者と管理者で連携を行い、職員の評価や事業所の実態を共有し、可能な限り研修に参加できるように取り組んでいる。法人内外を問わず、研修がある際には各職員へ通知し、勤務等でも参加できるよう取り組んでいる。	/	/	/	法人・事業所として年間計画を立て、定期的に研修を実施して職員育成に努めている。職員のストレスチェックのほか、管理者との面談が行われ、職員の意見等も聞いて対応していることもあり、風通しの良い職場となっている。また、法人本部の事務長が事業所の担当もしており、ユニット会や職員会には必ず参加して、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	年間で研修計画を作成しており、毎月OJTを行っている。また、研修の為に時間を作り、全員が持ち回りで担当のテーマに沿った勉強会を行う事、その議事録を作成しいつでも閲覧できるようにすることで職員全員が共有できるようにしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	管理者による職員の評価や勤務実績、個別の面接等によって各職員の思いや、意見をくみ取り、随時業務遂行の見直し処遇改善を行い、環境整備に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	地域密着型サービス協会に加入しており、可能な限り介護支援専門員連絡会や他事業所との連携会議、近隣事業所との合同企画、法人内外の研修や、講師を招いての研修を通して職員の意識向上を行えるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	定期的にストレスチェックや、面談、会議を行い、職員の思い等をくみ取り、業務改善や処遇改善に取り組んでいる。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	虐待や身体的拘束適正化に関する指針を整備し、年に1回の虐待防止に関する勉強会を行う事、また3か月に1回の身体的拘束適正化委員会の設置で職員全員が把握できるようにしている。	/	/	/	虐待防止等のマニュアルを整備し、年1回必ずテーマを取り上げて研修を実施していることもあり、職員は虐待防止や身体拘束防止等の意識は高い。訪問調査日には、職員間でお互いに声を掛け合いながら支援している様子が見られ、職員同士のより良い連携が取れている様子を窺うことができた。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	申し送りやユニット会を通して管理者と職員が利用者様状況や問題点等について話し合う機会を設けている。職員会など職員全員が参加する機会を設け、様々な意見交換や話し合いの場としている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	虐待防止マニュアルをもとに内部研修を行っており、不適切なケアがあった際の動きについて確認している。また、職員間でお互いに注意することで、不適切なケアにならないように注意している。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	定期的に施設内を巡回し、利用者様の様子の把握、職員とコミュニケーションをとること、又、それらによって得た情報をもとに代表者と連携を行っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	定期的に身体的拘束についての勉強会を行っており、緊急やむを得ない場合や禁止の対象になることは常に閲覧可能な状態にしている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体的拘束適正化委員会の設置、ユニット会、職員会議等をもってその機会としている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	そういった要望や相談の実績はないが、身体的拘束等の要望があった際には随時家族様と話し合いを行い、理解・納得が頂けるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	内部研修や外部研修を通して理解できるようにしている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	相談のあった際には他事業所や居宅、介護支援専門員等、各方面の専門職と連携を行い、支援できるようにしている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	運営推進会議や行事企画を通して地域包括支援センターや医療連携相談室と連携を図っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時対応マニュアルを作成しており、内部研修等で内容を共有、いつでも閲覧可能にしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	普段より異変の軽重に関わらず初期対応を徹底している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書、ヒヤリハット共に作成しており、発生時にはすぐに職員が周知出来るようにしている。また、その場で検討を行い、再発防止に取り組んでいる。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	事故報告書、ヒヤリハットを用いて原因の分析、対策を検討し、必要に応じてユニット会等でも検討を行い、周知している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成しており、内部研修で対応方法について勉強している。また、それらをいつでも閲覧可能にしている。苦情の窓口、責任者を設置しており、苦情があった際にはマニュアルに則って対応するようにしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情があった際には速やかに対応している。市への相談・報告の実績はない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情があった際には速やかに対応している。市への相談・報告の実績はない。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	苦情の窓口の設置をしており、運営推進会議に利用者様が参加できるよう配慮している。また、随時個別に聞き取りを行っている。			◎	職員は利用者や家族に、こまめな聞き取りや声掛けを行うことができおり、意見や要望を伝えることができる。利用者は、職員にいつでも、些細な事でも話すことができる信頼関係ができている。また、職員はユニットリーダーや管理者に、気軽に相談や提案ができる関係性も築けており、行事やレクリエーションなどのアイデアや意見が多く出されている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	苦情の窓口の設置をしており、運営推進会議に包括支援センターや民生委員を招待し、そういった相談ができるよう配慮している。	○		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	運営推進会議で意見や要望など、苦情も含めた聞き取りを行っている。また、苦情に関するフローチャートを掲示し、受付箱の設置も行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	管理者と連携し、必要に応じて現場に足を運んでいる。また、個別の機会を設けるなどで思いや意見の汲み取りを行っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	意見や提案のある場合は直接話し合いを行い、定期的にユニット会を開催している。また、参加できない場合でも意見が出せるように文書での参加が出来るようにしている。			◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	職員全員で分担し、年に1回の自己評価を行っている。				自己評価は職員全員で話し合い、ユニットリーダーを中心に作成している。それぞれの評価項目について、丁寧で的確な自己評価の作成ができている。また、外部評価の結果は運営推進会議内で報告するほか、家族がいつでも閲覧ができるよう事業所内に保管している。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	作成した自己評価をもとに職員間の意識統一が図れるよう話している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	前回地域交流の目標を立て、近隣施設との合同企画や紅葉や紫陽花見学などの季節に応じた外出支援を行っている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議を利用して報告を行っている。また参加できないご家族様には閲覧できるように準備している。	○	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	職員会議や運営推進会議にて行事企画の報告を行い、地域との関り等を確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	防災マニュアルを作成し、各ユニットで閲覧できるように整備し、定期的に勉強会を行っている。				定期的に、近隣にある法人の複合施設と協力して、合同での避難訓練等を実施している。訓練を繰り返すことにより、事業所内の災害への備えを強化しているところであるが、家族や地域住民には具体的な防災対策や訓練内容が伝わっていない様子である。今後は、防災訓練に家族や地域住民の参加を促すなど、工夫した取組を期待したい。万が一の災害発生時に備え、「実際にどのように避難するのか、どのような備蓄品を備えているのか、協力・支援体制の確保」など、現在の備えについて、地域住民等により詳細に周知できるような取組の検討を望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	マニュアルに基づき、夜間想定と日中想定での避難訓練、消火訓練、風水害訓練、地震訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	設備点検票を使用し、施設設備の点検を定期的に行っている。また、内部監査を行うなど、備蓄や備品の確認も行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	年に2回の避難訓練を行っているが、消防署の立ち合いや近隣施設との連携も含めて訓練しており、計画から反省まで合同で行っている。	x	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	他事業所との合同訓練を通して、消防署を含めて随時連携が取れるように取り組んでいる。ご家族の関わりも増えているが、地域という観点からは十分とは言えない。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	民生委員や包括支援センターに協力して頂き、地域の皆様に鶴翠の取組を知って頂けるように発信している。また、来苑者には日々の活動を見て頂けるように広報誌の作成や、行事の写真等を見て頂いている。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	民生委員や医療連携室、居宅などの紹介で相談に来られることもあり、随時対応し、関連施設と連携しながら相談支援を行っている。		○	◎	地域に「ニコカク新聞」を配布していることもあり、地元の民生委員から介護等の相談が入り、対応した実績もある。相談が入った場合には、管理者とケアマネジャーが対応することとなっている。法人・事業所として、外国人技能実習生の受け入れの協力もしている。また、市担当者や地域包括支援センター職員との連携も取れており、運営推進会議等を活用して情報共有ができている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	ボランティアや地域の皆様を招いての行事等、隣接施設と連携しながら交流の場を作っている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	関連施設の介護員の受け入れを行い、お互いの介護人材の育成を図っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	近隣施設や民生委員、婦人会の皆様等と協力し、地域イベントとして行事を企画、実施している。			◎	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 3 月 11 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3871200329
事業所名 (ユニット名)	グループホーム鶴翠 2階ユニット
記入者(管理者) 氏名	藤原 和哉
自己評価作成日	令和 3年 2月 1日

<p>【事業所理念】</p> <p>認知症という病気から自宅で生活が困難になったご利用者にも「もう一つの家」として頂けるような環境を作り、本来の自分らしい生活が出来る事を目的に支援を行います。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○課題 地域との交流を行い、ネットワークの形成と、地域との連携を密に行えるようにする。</p> <p>○目標 運営推進会議へ地域の皆様に参加して頂くこと。</p> <p>○取り組んだこと 運営推進会議の開催と行事企画を同時に行いご家族の参加人数を増やす。</p> <p>○結果 ご家族参加の企画を計画し、同日運営推進会議を開催することで、ご家族の参加が増えました。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所のリビングは大変日当たりがよく、日向ぼっこができるように置かれた席は利用者には大人気である。とても和やかな雰囲気の中、職員が丁寧な支援をしており、訪問調査日には利用者も自由にのびのびと過ごしている様子を見ることができた。現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、外出や面会制限などの負担が多くなった生活となっているが、そのような中でもできる限り工夫して、「利用者楽しく過ごしてもらいたい」という職員の強い思いが感じられた。法人内に多くの高齢者施設や事業所があるため、他事業所との交流も多く、法人・事業所内の職員研修も充実している。また、事業所には男性職員も多く、現在は外国人技能実習生の受け入れ協力もしている。また、職員は皆穏やかで優しいこともあり、職員同士の仲も良く、チームワークの取れた団結力の感じられる事業所である。</p>
--	---	--

## 評価結果表

項目 No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>								
<b>(1)ケアマネジメント</b>								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>職員と利用者様同士の談話、家族様との会話を通して思いの把握に努め、また、来苑者と情報交換を行い、本人の気持ちを汲み取るように努めています。</p> <p>ユニット会等で検討し、必要に応じて家族様へ情報交換をし、訴えがある場合は本人に寄り添って意見や思いを聞くようにしています。</p> <p>来苑時や運営推進会議、来苑時に家族様と話し合っており、ケアプランを通して家族様からの聞き込みを行っています。</p> <p>毎月アセスメントを行い、月2回のユニット会で検討して記録を残しています。</p> <p>月に2回ユニット会で検討し内部研修等でアセスメントを含めた認知症についての勉強会を行っています。</p>	○	◎	◎	職員は研修を通して、アセスメントについて学びを深めており、日常の支援の中で、利用者本人の思いや意向の把握に努めている。日記やメモをつける習慣のある利用者には、記載内容から思いや意向を把握することもある。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>入所時に担当ケアマネや家族様へ、また、その後も継続して家族様や来苑者に確認をしています。日常的にはレクや行事を通して本人様とも話し、人生観や生活歴の把握に努めています。</p> <p>生活支援の中で変化があればユニット会で検討し、アセスメントシートを作成し、申し送りを行い、情報を共有できるようにしています。</p> <p>申し送りで状態の把握をし、職員全員が共有することやユニット会を通して担当職員やケアマネ、と一緒に対応についての検討を行っています。</p> <p>変化時は申し送りやユニット会で検討・対策をしています。それを実施し、再検討を繰り返し、ご家族にも協力して頂きながら把握に努めています。</p> <p>利用者様の生活リズムは日々の申し送りや排泄表を用いて把握しています。</p>	◎	◎	◎	職員は家族や知人に、利用者のこれまでの暮らし方を聞いて把握している。また、職員は利用者が入居前に関わっていた介護サービス事業所の職員等にも積極的な聞き取りを行い、情報を把握している。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>ユニット会で話し合い、日々の申し送りに検討事項があればその場で対応方法を検討し実施しています。</p> <p>家族様の協力を得てアセスメント表へ情報を入力し、それをもとにユニット会で検討しています。</p> <p>生活の中で問題点を見つけユニット会で話し合い、結果などを日々の申し送りやケア行動チェック表に記載し検討をしています。</p>	◎	◎	◎	把握した情報は、日々の申し送りや月2回のユニット会を活用して、職員間で共有している。また、職員は利用者ごとのケア行動チェック表を毎日記録しているほか、ユニット会で検討も重ねている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	ケア行動チェック表を作成し、毎月目標を決め実行し、それをもとにレクリエーション計画を立てています。				利用者ごとの担当職員を中心に毎月モニタリングを行うほか、モニタリングの内容等についてもユニット会の中で意見交換をしている。出された意見などを反映して、計画作成担当者が介護計画を作成している。また、法人内の介護支援専門員同士で意見交換を行い、参考にする場合もある。	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人様の意見の聞き取りや、家族様の来苑時に意見を聞く事、またユニット会等で検討したことを含め作成しています。	○		◎		
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	家族様から話を聞き本人様が慣れ親しんだ衣類や道具を使用した生活が出来るよう支援しています。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	近隣の施設との意見交換を行いながら、ご家族に意見を求めて作成することに努めています。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケア行動チェック表を毎日記入し確認し、職員全員が把握できるように努めています。				◎ 毎日職員は、利用者ごとのケア行動チェック表を記録しているため、利用者ごとの具体的な計画やサービス内容を十分に把握している。また、職員の気づきやアイデアは、ケース記録や日誌に記録を残すほか、申し送りやユニット会の中でも伝達し、情報共有ができています。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	ケア行動チェックの記入・確認と日々の申し送りの徹底、ユニット会の開催を行っています。それらの内容を検討会にて検討しています。					◎
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個別でケース記録を作成し、また、毎日日報を作成しています。					◎
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	ユニット会、職員会等で意見を出し、記録し、職員の意見は書類にして残しています。					◎
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的に見直しをしており、体調変化、認知度などで必要に応じて随時行っています。				◎ 定期的な介護計画の見直しは、6か月ごとに行っている。利用者ごとのケア行動チェック表を確認するほか、毎月モニタリングも行い、職員は利用者の現状確認ができています。また、状態が変化した場合には、必要に応じて、随時計画の見直しをしている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月2回のユニット会で確認し、変化が無い時は、より良い支援を検討しています。					◎
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	変化が生じた場合は随時、病院や家族様、ケアマネ、介護員、看護師等と検討し作成しています。					◎
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月、職員会・ユニット会・担当者会を開催して解決に取り組んでいる。緊急の場合はすぐに対応を考え、ケアマネなど多職種で検討を行っています。				◎ 月1回、両ユニット合同の職員会を開催するほか、月2回ユニット会を開催している。担当者会議も月1回開催しており、会議録は職員に回覧され、確認後には押印やサインをする仕組みづくりをしている。また、職員会の司会と会議録の作成は、職員全員が順番に担当し、会議は職員全員が発言できるよう工夫している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職員全員が主役となり意見が言える環境をつくり、参加できない場合には書類にて意見や思いを伝えられるようにしています。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	会議に参加できない場合は事前に意見書を作成して頂き毎月開催しているユニット会にて検討し、その内容を含めた報告を毎月1回開催する職員会にて行っています。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を作成し、後日確認、閲覧印を押印し全員が共有できるようにしています。					◎
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送り帳を作成しそれを使用して申し送りを日々行い、重要事項については赤で記入などし、情報を確認、共有して支援しています。				◎ 日々の申し送りのほか、申し送りノートを活用して、確実な情報共有に努めている。会議録等の書類に残して回覧するほか、口頭での伝達も行われている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送り帳と共に日々の口頭で徹底をはかり、確認書類については確認印を押すようにし、面会簿、外泊、外出、受診報告記録用紙を用意し随時記入しています。	◎				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	ご本人と話をすること、家族様へ興味や得意なことをお聞きすることで得た情報をレクリエーションや行事に取り入れ、ご本人の趣味の道具を持ってきていただく等支援しています。	/	/	/	日常的に、職員は利用者が選択できる場面を作れるよう努めている。利用者の自己決定できるよう、自由に好む場所で過ごしてもらえるよう配慮している。また、職員は利用者が積極的な発言や思いの表出ができるよう、言葉かけを工夫している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	毎日の更衣やレクリエーション時に本人様と一緒に衣類や物事を洗濯したり、トイレ誘導など介助時に随時確認を行って支援させて頂いています。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	認知症介助に関する勉強会を行うことで、利用者様への言葉かけの方法や支援の仕方を研修し、それを通して得た情報をもとにユニット会や検討会を行い、強制することなく随時支援しています。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	本人様の意思確認を行い、毎日の様子を職員間で確認・共有しており、無理強いすることなく、本人様の希望や要望、意思に応じた対応が出来るよう支援しています。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	「ありがとう」というお礼の言葉を大切にしたい言葉かけをし、また、接遇やコミュニケーションの研修を行い、職員の質の向上を行っています。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	◎	本人様の表情・仕草の情報を共有し訴えたいことや何かある場合にはすぐに対応するようにし、状況に応じて筆談、日記、ジェスチャーを使用するなど意思の確認を行います。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	法人理念をテーマに勉強会を行い、言葉かけの仕方、排泄介助、入浴介助等の配慮や一人になりたいたい時などに使用する空間の設置、パーソナルスペースや職員の表情等、定期的に研修している。	/	○	◎	法人・事業所として、接遇やビジネスマナー、コミュニケーション等の研修会を実施しており、職員は利用者を敬い、常に適切な言葉かけや態度で支援できるよう努めている。また、居室入室時の声掛けやさりげない支援をするなど、日頃から職員が習慣が身に付き、実践している様子を窺うことができた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	出来るだけ目立たずさりげない声掛けができるよう心掛け、本人様が嫌がるような内容については別の単語でお誘いし、個人的にお話しさせていただきようとしている。排泄・入浴介助等、プライバシーを考慮し対応しています。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレ時基本的には扉を閉めているが「扉を開けておいてください」と言われる方もいる為、その場合は職員が他者様に見えない様配慮しています。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室時、必要な時のみ入室し、ノック及び声かけしてから入室するよう心掛け、洗濯物の整理やベッドメイキングの際には、本人の了承を得てから入室させて頂いています。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	勉強会にて個人情報の取り扱いやプライバシーの保護について研修しており、個人が特定できる資料の施設からの持ち出しやUSB等外部機器の使用の禁止を徹底しています。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	職員がすべてを行うのではなく、洗濯、食器洗い、掃除などの家事作業を一緒に行い、出来ることはして頂く、わからないことは教えていただくようにしています。	/	/	/	事業所では、利用者のアセスメントが十分にできているため、未然にトラブルを防ぐ適切な支援ができている。共有スペースには十分な広さがあり、小上がりの畳スペースは障子戸も閉めることもできるため、利用者が一人で過ごしたい時などには有効に活用されている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	勉強会で研修し、グループホームの意味や共同生活の大切さを学んでいます。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	トラブルや良好関係と思われる場面があった際には申し送り等で情報共有し、利用者様同士の関係の把握に努め、それらをもとに食事の座席等配慮し、共同生活上での問題がある場合には職員がすぐに対応することでトラブルにならない様に努めています。他者の関係を築き難い利用者様は職員が間に入り関係の構築を支援しています。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	すぐに対応しており、職員が間に入り、お互いの気持ちを確認して解消すること、それで困難な場合は職員同士で協力し対応しています。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	本人の意見をお聞きする事や来苑時に家族様に聞くことで出来る範囲で把握しています。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	本人の意見をお聞きする事や来苑時に家族様に聞くことで出来る範囲で把握しています。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	お墓参りや法事、お祝い事や散髪、食事など、家族様の協力を得て可能な限り支援し、定期的にハガキを送っていただく事や電話連絡を家族様に働きかけています。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会にはいつでも来て頂けるよう掃除を行い、環境の整備に努め、来苑された際にはくつろいでいただけるよう密の回避、プライバシーにも配慮しています。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	年間の行事計画に基づき、各月の担当者が、企画して外出したり、希望に応じ中庭の散策や、他階への移動もっており、可能な限り対応できるようにしています。室内でもアクティブに活動できるように、合同レクやスポーツを取り入れています。	×	○	◎	利用者の状態に関わらず、同敷地内にあるケアハウスとの間にある中庭で、毎日散歩をしている。事業所前にある道路の交通量は多く危険なこともあり、利用者は広い敷地内を歩きながら、併せて日光浴もしている。敷地外へ出掛ける際には車を使用しており、秋には紅葉狩りに出掛けることができた。また、受診等で家族と一緒に外出する利用者も多い。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	当事業所だけでなく、他企業所の企画にも参加することで外出の機会を設けています。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	リフト車を利用した外出を企画することで車椅子使用の方や麻痺のある方も不自由なく参加して気分転換を図っています。			◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	病院受診の際に外食される方やお墓参り、自宅や近所への外出される方、お祝い事や近隣での外出等、参加者の状況の確認を行いながら、感染対策を行った上で参加して頂くようにしています。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	定期的に勉強会を行っており、認知症に対する知識やコミュニケーション技術等を研修し、その一環としてアセスメント法方等、ケアに関することも取り入れており、ケアマネと協力して対応できるようにしています。				できることやできそうなことについて、ゆっくり利用者自身にしてもらえるよう取り組んでいることもあり、職員は口や手を出しすぎない習慣が身に付き、見守りや待つ支援が徹底されている。訪問調査日には、利用者の食事介助や誘導の場面で、職員が見守りながら支援をする様子を窺うことができた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	認知症高齢者の身体機能に関する研修を行い、理解できるようにし、普段の生活では職員がすべて行うのではなく、利用者様と一緒に家事や生活を行う事で、無理なく本人のペースに合わせた支援を行っています。またレクや行事に取り入れ日常的に機能訓練を行っています。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	「できること、できそうなこと」は静かに見守り、十分にできない事については、協力して一緒に行うようにし、特に食事や排泄、入浴に関しては、本人のペースに合わせた支援を行い、手伝いすぎないようにしています。	○		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	日々の申し送りやユニット会にて検討し、本人に合った役割や出番を考えており、食器置き、お茶配り、テーブル拭き、お盆拭き等を行っています。				編み物や将棋が得意な利用者には、家族に自宅から道具を持って来てもらい、職員は趣味に熱中できるような環境づくりも支援している。バスケットボールが得意だった利用者には、職員が手作りのゴールを設置したり、両ユニット合同でレクリエーションを行う日を設けたりするなどの工夫をしている。また、「利用者にはそれぞれのペースで毎日を楽しんで欲しい」と願う職員の思いが、利用者の暮らす様子からも窺うことができた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	誕生会や運動会等一人一人が出番になり楽しめる用事を企画し開催し、カーテン開けや他者のお世話等好んでされていることを把握し無理なく役割を担っていけるように支援しています。	×	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	◎	他事業所へ赴き歌の披露をしたり、獅子舞やお神輿が来たときには、地域の楽しみに参加していただけるよう支援しています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	自分でできる方には、自由に衣類を選んで着用してもらうようにし、状況に応じて利用者様と職員が一緒に衣類を選択している。				日頃から、利用者の整容に限らず、職員がさりげない支援や声掛けをすることができている。服を選んで着ることができる利用者には自らしてもらい、乱れが見られた場合には、職員がさりげなくフォローしている。現在はコロナ禍において、敷地外への外出制限もあるため、毎月訪問理容に来てもらい、髪型を整えている。また、訪問調査日には、全ての利用者がよく似合った服装や髪型で清潔感があり、帽子などこだわりの装いもしている利用者もあり、快適に過ごしている様子を見ることができた。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	家族様にお協力していただき、季節に合わせた衣替えを行って、家族様と情報交換し、本人の好みに合わせたものを用意するなど配慮しています。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	「今日着る服はどれにしますか」と声掛けをし、一緒に選ぶことで了承を得るよう対応しています。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	家族様の協力を得て色や形など複数用意し、自分で選べる方に関しては自分で選んでいただきできない方はどちらか選んでもらうことで対応しています。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	居室にお連れし個別に対応すること、ジェスチャーを交えて伝えることで支援しています。汚れた場合には、すぐに更衣して頂けるようにしています。		○	○		◎
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	理容院の方に来ていただき、定期的に散髪を行っているが、個人の希望があれば、感染対策に注意して、慣れ親しんだお店に行くように支援しています。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	服装の乱れが見られたときにはすぐに整えるよう心がけており、随時整容を行い支援しています。					
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	内部や外部の研修により職員全員が学習しています。				バランスの取れた献立を業者の栄養士が作成し、途中まで調理された状態で食材が事業所に配食されている。ユニット内のキッチンで、食材を温め直したり、盛り付けなどの最後の仕上げをしたりしている。お菓子づくりやそうめん流しなど、職員と利用者が一緒に調理する日も設けている。メニューは利用者の要望や好み等を確認し、毎月開催される給食会議で検討しているほか、利用者一人ひとりの食事形態についてもユニット会の中で話し合い、業者に話し合った内容を伝達できている。お箸は自宅から持ってくる利用者もいるが、食器は事業所で用意した陶器の物を使用している。また、職員は利用者の見守りや声かけを優先し、一緒には食事をしないスタイルをとっている。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	出来る利用者様については、調理・盛り付け・お茶くみ・テーブル拭き・配膳・下膳・後片付け等を一緒にして頂いています。			○		
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	他者様のお世話や家事を一緒に行うことで、楽しみや生きがいを感じて頂けるように支援しています。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入所時、家族様との連携、日頃の食事の様子などからモニタリングし、必要に応じて医師や看護師と連携しています。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	アレルギーや苦手なものを把握し、季節に合わせた食材を使用した献立になっています。盛り付けは職員と利用者様がコミュニケーションをとりながら一緒に行う事で、好みや昔ながらの物を把握するようにしています。					○
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	◎	個人の状態や体調に合わせた形態や食器を利用している。必要に応じて刻みやミキサーも使用するが、出来るだけそのままを召し上がって頂ける様、湯で加減や塩分調整で対応し、体調不良の場合は看護師と連携し対応しています。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	利用者様に合った一番最適な物を選び使用しており、希望に応じて馴染の物を使用してもらっています。					◎
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食事介助の時や食事の観察をして器の入れ替えや水分補給の介助等、適切に対応出来ています。必要に応じて検討会を開き、対応策を随時考え、実施しています。					△
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	ホール内に台所があり、目の前で調理することで音やにおいが届く様になっています。食事前のレクリエーションで献立を言ったりしながら楽しみに待たれています。		◎			◎
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	管理栄養士と連携し、栄養状態の共有、食事バランス、摂取カロリーは確保され、水分摂取量は職員により掌握し摂取して頂いています。					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事量や表情など観察し、随時検討しながら食事がすすまない原因を探り、解決に向けて職員間で案を出し合うことで工夫に努めており、必要に応じて看護師や病院とも連携することを視野に入れています。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	献立に応じて調理の仕方や時間、盛り付けなど検討し、個人に合った提供の仕方を心がけ、毎月行っている給食会議で栄養士からアドバイスを受け、随時実施しています。					◎
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食事担当の職員は必ず消毒、エプロンの着用、手洗いをし、調理器具や台所、冷蔵庫は常に清潔にして衛生管理をしています。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	内部、外部研修を取り入れ学習に努めており、理解し、口腔ケアに関する研修にも随時参加しており、その重要性なども理解できています。				毎食後に、利用者は居室にある洗面台で歯磨きを行っている。介助が必要な利用者には、職員が見守りやできない部分の介助をしている。毎月行うモニタリングの中でも、利用者一人ひとりの口腔内の状態を確認し、記録に残している。痛みや不具合があった場合は家族に協力してもらい、歯科医を受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	食事の様子や毎食後の口腔ケアにて、義歯のつけ具合や嚥下状態、虫歯の有無などを常に把握するようにしています。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	歯科医講師のもと、口腔ケアの外部研修に参加し、その内容を事業所で共有することで、毎日の支援に活かせるようにしています。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎日の口腔ケアと手入れに努めおり、研修にてその方法などを学び、夜間は洗浄剤で手入れしています。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	口腔ケアの声掛けや見守りや介助を毎日、毎食後に支援し、その都度口腔内の確認と義歯の手入れ等行っています。定期的に義歯の消毒も行い、口腔清潔に努めています。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	異変が感じられる際には職員間で申し送り、様子観察を行い、また、随時家族様と連携を取って必要に応じて受診を相談しています。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	内部、外部の研修で学習し正しい使用法の実践を行い、おむつ類の検討の際にはご家族様にも意見を聞いて、本人様と一緒に決めることで、精神的に安心して頂く様にしています。				ユニット内に3か所トイレがあり、手すりも設置されている。職員は排泄状況のチェック表を付け、利用者の状態に合わせた適切なタイミングで声掛けやトイレ誘導等を行っている。排泄時にトイレの戸を占めるのを嫌がる利用者には、職員が周りから見えないよう目隠しする工夫をしている。また、排泄の支援に関しても、月2回実施するユニット会や日々の申し送りの際に、職員間で話し合い共有されている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	原因を理解しており、水分摂取を促すことやレクリエーションに運動を取り入れることを行っています。また、体調不良や病気の原因となることを理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表と申し送りを活用し把握できています。個人のアセスメント表の活用も行います。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	本人の希望や排泄パターン、行動などを把握し、基本はトイレでの排泄が出来るように支援し、随時利用者様に適切なおむつ類は何か検討して対応し、個人に合った支援をしています。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	原因を見つけ排泄の声掛けのタイミングや、水分補給を促すこと、レクに運動を取り入れる等、随時解決に取り組み、要因が病的な時は病院受診を視野に入れ検討しています。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	パッドに汚染が無いよう、本人の希望や、表情、行動、排泄パターンを把握し、早めの誘導に努めています。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	ご本人の意見を取り入れると共に家族様へ情報提供を行い、職員、家族、本人、看護師で検討しながら、現在の本人様にとって最適な物を使用して頂く様にし、希望や意見があった際には随時家族様と連携し対応しています。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	日中・夜間・体調などで適時使い分けており、現在の状況を悪くしないように支援しています。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	体操を毎日のレクに取り入れることや、水分摂取の言葉がけ、リズムよい生活が出来る様に随時声掛け行う事で、便秘予防や改善に取り組んでいます。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	曜日、時間帯、回数等基本として苑で決めています。利用者様の希望や思いをくみ取り臨機応変に対応し、長さや温度はご本人の希望に沿って入浴されており、随時個人に合った支援を行っています。	◎		◎	利用者は、週2回以上、午前中に順番に入浴できるよう支援している。入浴が苦手な利用者には、午後からの入浴や別の日に変更するほか、利用者の希望にできる限り要望に応えられるよう工夫して支援している。また、利用者の重度化にも対応できるよう1階ユニットの浴室には、座位のまま入浴できるタイプの機械浴槽を活用して、安心安全に入浴してもらっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	精神的にリラックスして頂く様、個人の特徴や好みを把握し、無理強いすることなく支援しています。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	ご自分で出来ることはして頂き、難しいところは職員がお手伝いさせて頂く、また、常にそばで寄り添いながら安全に支援しています。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いにせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴拒否に対しユニット会で原因や理由を検討し、無理強いすることなく、職員が交代してお誘いすることや、時間帯の調整など随時工夫し、入浴して頂ける様になっています。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックを行い、状態を確認し、判断が難しい時は看護師と連携し可否を決め、入浴後は状態観察をし、必要に応じて看護師と連携を取っています。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	職員全員が把握し、状態変化の時は申し送りして把握して支援をしている。	/	/	/	ほとんどの利用者は、夜間安眠できている。時には、夜中に短時間の睡眠で目を覚ます利用者もいるが、職員が話し相手をするなど、上手に対応をしている。また、両ユニットで睡眠剤を服用している約2名の利用者もいるが、主治医とも相談ながら、職員は日中の過ごし方を工夫するなど、更なる減薬につながるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	職員で原因を探り、解決に向けて支援し、日中に体操や運動を取り入れたりレクリエーションや行事で楽しんで頂く様に取り組んでいます。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中に運動やレクを行い、リズムの良い生活をして頂くことで睡眠がとれるように支援し、睡眠剤や安定剤は病院との連携で指示のもと正確に服薬され、変化があった時にはすぐに病院や看護師と連携しています。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人のご希望に沿って居室で休める環境を作り、共有スペースでも個別の時間が取れるような環境を整えています。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	ご家族や関係者様から連絡がいつでも可能なように支援して、いつでも連絡して頂けるようにすぐに利用できる場所に電話を設置しています。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	レクで年賀状を作成するなどの支援をしており、本人様から連絡の希望や伝えたいとの訴えがあった際にはすぐに対応しています。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	ご家族様や関係者様からの電話にすぐに対応できるようにし、いつでも使用できるように電話を共有スペースに設置しています。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙や葉書が届いた際にはご本人に読んでいただき、可能であれば手紙を書く様に促すことや、自分で電話を掛けられるようにしています。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	状況により電話や手紙の支援をお願いし、普段からそういった便りを頂けるように家族様に協力をお願いしています。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	研修や勉強会を通して、お金の管理等の支援の大切さや、自立に向けた支援であること等、認知症に対する影響等を理解できるようにしています。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	買い物に行きたい希望があれば、家族様と一緒に買い物に行っていたできるようにしています。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物をする時は、近隣で馴染のある所を紹介するようにしています。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	買い物は家族様として頂いて、金銭の保管をご遠慮して頂くようにし、急連の支出の際は事業所の小口現金より立替をするよう便宜を図ることもあります。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	買い物は家族様として頂いて、金銭の保管をご遠慮して頂くようにし、急連の支出の際は事業所の小口現金より立替をするよう便宜を図ることもあります。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	預かり金規定を整備しており、管理方法等も整えている。家族様にも説明、同意を得て、証明書に署名、捺印をお願いし、現在は利用者様同士のトラブルがあったことで、ご遠慮頂く様にお願いしています。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	家族様や本人の意思を聞き入れ、可能な限り希望に沿えるようにし、利用者様の要望があった場合は、随時家族様に相談し、協力して支援するようにしています。	◎	◎	家族の準備した食事を届けてもらったり、行きつけの店からコーヒーを差し入れてもらうなど、管理者等は「利用者や家族の要望にはできる限り応えていきたい」と考えている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>(3)生活環境づくり</b>										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	施設の隣に駐車場を確保すること、中庭の植物の手入れ玄関の掃除、建物周辺の掃除を行い気軽に来て頂けるようにしています。	○	○	◎	玄関周りは掃除が行き届き、整頓されている。緑の多い中庭に面しており、温かい雰囲気となっている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節に合わせた掲示物やイベントに応じた飾り付け、利用者様と一緒に作ったものを飾り、目で見て楽しめる空間にし、ソファを用いたくつろげる場所を用意し、利用者様が思い思いに生活できるような環境を整えています。台所はオープンにし、利用者様と一緒に家事が行えるようにしています。	○	○	◎	共用スペースは、職員が毎日丁寧に掃除をしており、とても整頓された衛生的な空間となっている。広々としたリビングは中庭に面しており、大変日当たりが良く、窓際での日向ぼっこが日課となっている利用者も多い。季節が感じられる掲示物や小物をさりげなく置いてあるほか、利用者と一緒に手作りした折り紙の作品も飾られている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除を徹底し、定期的な空気入れ替え、状況に応じてカーテンやブラインドを利用し、環境整備に努めています。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節に応じた花や果実、ススキ、鯉のぼり等、その時期の特徴を生かした展示や掲示をこなんことで利用者様と一緒に季節を感じ、色やにおいなどの五感で楽しめるように努めています。	/	/	/		◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	話ができるようソファの設置、気の合う同士が近くに座れるような座席配置、中庭に面した場所に個別の場所を用意したりして、思い思いに過ごせる環境を整えています。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	排泄時には扉を開け他者から見えないようにしています。利用者様によっては開けておくことを希望されることもあるが、職員が間に入るなど配慮しています。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	持ち物に制限はなく、使い慣れたものを持ってきていただき、利用者様の希望を聞き、必要に応じて家族様へ協力をお願いします。	○	/	◎	居室にはクローゼットがあり、ベッドや引き出しも用意されている。利用者は自宅からお位牌など思い出の品や家具を持ち込むことができる。また、写真やカレンダーを飾り、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせる居室となっている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	各居室やトイレ等に表札をつけ迷うことなく目的の場所にご自分で行けるように工夫し、職員が手伝わず、一緒に家事や行動を行う事で、利用者様の可不可を把握し、自立へ向けた援助を行っています。	/	/	◎	居室のドアには表札としてネームプレートが貼っており、必要に応じて、目印になるものを追加して掲示している。居室とトイレのドアの区別が難しい利用者には、ピンクのリボンの飾りをつけるなど、利用者の状況に応じた工夫もしている。また、訪問調査日には利用者がスムーズに移動できるよう、職員がヒントとなるさりげない声掛けをしながら、導く様子を見ることができた。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	衣替えやクローゼット内の整理、家族様と連携して本人様に合わせた衣類の数や種類、家具の設置場所などを検討し、トイレや居室に表札をつけ、混乱しないように努めています。	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	雑誌、新聞、急須と電気ポット、コップや食器類等、いつでも手に取り使用することができるように準備し、居室には写真や3段ボックス、ラジカセ等馴染みのものを置いていただき生活していただいています。	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	職員会・ユニット会等で勉強会を行い、職員の理解を深めているが、施設前の道路の交通量が多いこともあり、入所時や運営推進会議を利用して家族様、地域の皆様にご理解を頂いています。	◎	◎	○	事業所の建物は交通量の多い道路に面しており、利用者の危険性や防犯面からも、ユニットの出入り口は施錠されている。鍵をかけることの弊害について職員は理解しており、外に出ようとしている利用者には職員が寄り添い、中庭に出て散歩をするなどの対応をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	○	入所時や運営推進会議等で家族様・地域住民の方々話し合い、ご理解頂いただき、利用者の安全や地域住民の不安の解消のために施錠を要されるご家族様や住民も多いができる限り、自由な暮らしができるよう配慮しています。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	事業所前の交通量が多く危険性があるので注意するように地域住民の方からアドバイスを頂いており、職員がしっかりと見守り観察を行う事で利用者様の安全を確保することができています。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	個人ファイルを作成しており、いつでも閲覧可能にし変更点についてはその都度記入し変更しています。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者様の表情や行動観察を行い、定期バイタルチェック、随時のバイタルチェックを行い、すべて記録に残してすぐに見られるようにし、都度申し送りを行い情報の共有を行っています。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	入居者様の日々の変化については、看護師に報告し、廃用について話し合っており、医療連携室の相談員やかかりつけ医と連携を図るように努め、入院が必要な場合には適切な入院につなげる等の努力をしています。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	受診は、ご本人及びご家族が望まれる病院に行っており、その都度スムーズな検診等が行えるよう必要な情報を提供しています。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	協力医療機関の往診や、利用者様個々のかかりつけ医へも家族の協力を得て受診が継続出来る様に、家族の協力が困難な状況では、介護タクシーを予約したり、ヘルパー同行を依頼し受診出来るようにしています。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	定期的に通院を行って頂いており、日頃の状態変化については、家族様へ連絡、相談等を行い、必要に応じて病院受診をお願いし、その結果については都度職員も含めて情報交換し、医師、家族様との連携が出来るように努めています。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には施設での生活状況、服薬状況、既往歴、ADL等の情報提供を行っており、看護師や医療連携室との連携を行っています。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院先の医療連携室の相談員との連携を密に行い生きるだけ早く退院出来るよう情報交換を行っています。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	運営推進会議を利用し、医療連携室の相談員等との連絡を密に行っています。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	入居者の日々の変化については、看護師に報告し、対応等について話し合っており、家族様への報告や医療機関等への相談等も含め、都度ユニット内での情報共有に努め、必要に応じて協力医療機関や主治医へ相談を行い、アドバイスを頂いています。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医療機関、看護職に24時間相談出来る体制を整えており安心して過ごして頂いています。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々のバイタルチェックや、変化、異常時には上司に報告、記録を残し、看護師と連携し、早期に治療が開始出来るようにしています。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬は看護師が管理を行っており、目的や副作用についても理解し、どの職員でも理解出来るように服薬の一覧表を作成しています。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	看護師と連携し、飲み忘れや誤薬がないよう服薬業務に関するマニュアルを作成しており、落ち着いて業務に当たるようにしています。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	服薬後にはしばらくゆっくりしていただき症状や行動に注意して観察し、必要に応じて申し送りをし、情報を共有、緊急時の対応マニュアルを整備しています。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	利用者様の状態の変化等を記録し、必要に応じて看護職に相談・情報共有でき、また、協力医療機関や主治医へ情報提供を行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	契約時に重度化した場合の事業所としての対応や法人としての対応について説明を行い、また、看取り指針の整備をしており、段階に応じて早めに家族様と話し合いを行うように支援しています。	/	/	/	事業所には、「重度化及び看取り指針」があり、契約時に職員が利用者や家族に、法人・事業所として、それぞれの段階で対応できることを説明している。利用者の状況が重度化した場合には、家族や主治医等の関係者と話し合う機会を持っている。また、事業所として看取りは行っていないが、できるだけ事業所で長く暮らし続けられるよう、機械浴槽を設置するなどの工夫をしている。事業所で対応できなくなった場合は、利用者は病院や法人内の別の施設へ転院している。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	◎	重度化した場合、利用者個々の状態に最適なサービスが受けられるよう法人内で話し合いの機会を持ち、チームで支援に取り組んでいます。	○		○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期については現在対応していないが、重度化した利用者様への対応については随時ユニット会や職員会議で対応方法を考え、必要に応じて勉強会を開催しています。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	看取り指針を整備し、契約時に事業所として出来ることを十分に説明し、理解が得られるように努めています。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	看取り指針に従って、グループホームでの生活が困難になる前に、段階ごとに家族様と話し合いや相談を行い、特養等への住み替えや医療機関への相談等、早い段階でご家族様と話し合い、本人や家族様が不安に思わないように対応しています。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	傾聴を行い、ご家族様の心情の理解に努め、必要であれば話し合いを行い、相談に関しては随時受け付けてすぐに対応しています。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	マニュアルを各フロアに設置し職員がいつでも学習出来るようにし、感染対策委員会を設置し、随時情報収集と発生状況の報告を行う事、内部研修として年に2回の感染症に関する勉強会を行い、時期など考慮して対策を行っています。	/	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	職員の勉強会を通して学習し、看護師と連携しながらその指示のもと対応出来る体制をとり、随時職員が確認出来るようにマニュアルの整備を行い対応しています。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	3ヶ月に一度、感染対策会議を開き、施設の現状の報告、愛媛県や近隣の状況報告また、予防や対策を話し合い地域の状況の把握に努めています。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	本部との連携を常にとり情報を共有し随時対応し、また、感染対策委員会の構成員で情報収集を行い、感染拡大の防止や予防に努めています。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	トイレ時、食事前には手洗い及び手指消毒を徹底し、食後の口腔ケアも声掛けにて徹底実施しています。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	本人の気持ちを把握し要望を聞き言葉にならない訴えは表情をくみ取るようにし、それらを申し送りやユニット会にて共有し本人の意思や思いをくみ取れるように、家族様にも情報提供等の協力をして頂いています。	/	/	/	現在はコロナ禍のため、家族との面会制限もあり、行事に参加することはできていないが、「ニコカク新聞」を送付して、利用者の日常の様子や表情が伝わるよう工夫しているほか、職員から電話を掛け、家族との情報共有に努めている。最近では職員の異動がないこともあり特段の報告事柄はなかったが、事業所からのお知らせも新聞を活用して掲載している。また、コロナ禍の終息後には、家族が行事に参加しやすいよう、運営推進会議と同日に行事を開催する工夫なども検討している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	居室でゆっくり談話して頂けるよう配慮し日頃の利用者様の様子などをお話し、行事やレクの様子を普段から写真に撮っており、その様子を見て頂くことや行事参加の呼びかけにて関係作りを行っています。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事と一緒に見学や参加していただけるような機会を作って、敬老会、秋祭り、夏祭り、季節や時期に応じた企画を準備していたが、感染対策もあり、実施が難しかった。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月家族様にお便り、日頃の様子や行事の時の写真、ニコカク新聞(広報誌)を作成しており、随時閲覧できるように掲示、案内を行っています。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	感染対策により、運営推進会議等を施設内で開催することが出来ず、ご家族様には、電話や書面などで健康状態をお伝えしています。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	本人への理解を含め面会または電話などで今までの生活の様子などを聞き、ご家族とご本人の関係の理解に取り組んでいます。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	一つ一つ家族様の了解をいただきながら、協力をして頂くように努めています。	x	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	行事企画にて交流出来る機会を作るように努めています。クリスマス会、文化祭など、ご家族も一緒に参加できるような企画を行います。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	常に看護師や上司相談の上家族様に説明し、対応策を話し合っています。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	常に看護師や上司への相談を行い、家族様に説明し、対応策を話し合っています。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	随時直接説明しており、必要であれば同意書にて了解を得、納得して頂いています。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居の際には事前に家族様と話し合いを行い、納得して頂いたうえで退居の流れとなり、その際に次の入居先の相談等も行い、入院等であれば入院先の相談室とも連携を取っています。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金の詳細を文書化しており、文書をもって説明、同意書に署名捺印を頂いています。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	地域の皆様には設立段階から目的の説明を行っています。運営推進会議を用いて地域の方に施設の運営状況や目的等の説明を行っています。	/	○	/	利用者と職員と一緒に地域行事へ参加したり、複合施設の盆踊りなどの行事に地域住民が参加協力をしたりするなど、以前から地域との交流は継続できている。現在はコロナ禍のため、地域行事を中止したり開催規模を縮小したりして交流は減っているが、職員は「早くまた以前のように地域に出て行きたい」という思いを強く持っている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の皆様へのあいさつを日常的に行っている。技能実習生も地域との関係は良好であり、施設とのつながりを切らないように努めています。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	毎年、近隣の施設や、ボランティアなどから行事の声掛けをいただき、参加している。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	家族様やその関係者様の来訪がある。(現在新型コロナウイルス感染対策により面会中止している)	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	感染対策に注意しながら、近隣施設の利用者様やご近所の方との交流を行い、行事などは施設内で楽しまれています。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	感染対策に注意しながら、ご利用者の馴染みのお店に行けるように配慮している。動人の地域の皆様への挨拶は欠かさず行い、関係が切れないようにしている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	毎月の行事企画にて施設内で行事をしたり、季節に応じた事を楽しまれています。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	婦人会や理美容店の協力を得ることで利用者様の生活や、行事企画に取り入れ、施設内で楽しまれています。近所のコンビニと職員が顔なじみになる事で、施設の理解を得ています。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	家族様、民生委員、地域包括支援センター、利用者、近隣病院施設の医療連携室、近隣介護施設の職員等の参加がある。	○	/	◎	運営推進会議には、家族や地域住民、市担当者など、様々な立場から参加してもらっていたが、現在はコロナ禍の対策のため、書面による会議報告となっている。管理者等は、平日の会議開催にすると、働いている家族は参加が難しいこともあり、開催日程の再検討が必要と感じている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	運営状況、利用者様の状況、毎月の行事企画等の報告を行っており、自己評価や外部評価の報告に関しては口頭での報告と、いつでも閲覧できるように設置しています。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	家族様や、民生委員、医療連携室からの意見や助言を求めており、感染対策、行事等様々なことに取り入れている。家族様からの要望や意見に関してはすぐに対処し、随時報告しています。	/	△	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	敬老会や地域を招待しての行事、ボランティア招致の際など、家族様も一緒に参加できるように運営推進会の開催を行っています。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	何時でも閲覧可能なようにしており、毎回包括支援センターへも公開しています。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	ご利用者様にも一つの家であるような施設作りを行う事、それによって本来の自分らしい生活が出来るように支援していくことを理念の一つにしています。家族や利用者だけではなく、職員や地域の皆様も含めた家族であるような環境作りに取り組んでおり、そのための会議等で共有出来るようにしています。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	入所時の説明や、施設見学に来られた際に説明を行い、来園者がいつでも閲覧できるように理念を含めた事業計画を作成しており、随時見て頂いています。	○	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	代表者と管理者で連携を行い、職員の評価や事業所の実態を共有し、可能な限り研修に参加できるように取り組み、法人内外を問わず、研修がある際には各職員へ通知し、勤務等でも参加できるように取り組んでいます。				法人・事業所として年間計画を立て、定期的に研修を実施して職員育成に努めている。職員のストレスチェックのほか、管理者との面談が行われ、職員の意見等も聞いて対応していることもあり、風通しの良い職場となっている。また、法人本部の事務長が事業所の担当もしており、ユニット会や職員会には必ず参加して、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	年間で研修計画を作成しており、毎月OJTを行い、研修の為に時間を作り、全員が持ち回りで担当のテーマに沿った勉強会を行う事、その議事録を作成しいつでも閲覧できるようにすることで職員全員が共有できるようにしています。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	管理者による職員の評価や勤務実績、個別の面接等によって各職員の思いや、意見をくみ取り、随時業務遂行の見直し処遇改善を行い、環境整備に努めています。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	地域密着型サービス協会に加入しており、可能な限り介護支援専門員連絡会や他事業所との連携会議、近隣事業所との合同企画、法人内外の研修や、講師を招いての研修を通して職員の意識向上を行えるように取り組んでいます。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	定期的にストレスチェックや、面談、会議を行い、職員の思い等をくみ取り、業務改善や処遇改善に取り組んでいます。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	虐待や引退的拘束適正化に関する指針を整備し、年に1回の虐待防止に関する勉強会を行う事、また3カ月に1回の身体的拘束防止委員会の設置で職員全員が把握できるようにしています。				虐待防止等のマニュアルを整備し、年1回必ずテーマを取り上げて研修を実施していることもあり、職員は虐待防止や身体拘束防止等の意識は高い。訪問調査日には、職員間でお互いに声を掛け合いながら支援している様子が見られ、職員同士のより良い連携が取れている様子を窺うことができた。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	申し送りやユニット会を通して管理者と職員が利用者様状況や問題点等について話し合う機会を設け、検討会や職員会など職員全員が参加する機会を設け、様々な意見交換や話し合いの場としています。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	虐待防止マニュアルをもとに内部研修を行っており、不適切なケアがあった際の動きについて確認し、職員間でお互いを注意することで、不適切なケアにならないように注意をしています。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	定期的に施設内を巡回し、利用者様の様子の把握、職員とコミュニケーションをとること、又、それらによって得た情報をもとに代表者と連携を行っています。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	定期的に身体的拘束適正化についての勉強会を行っており、緊急やむを得ない場合や禁止の対象になることは常に閲覧可能な状態にし、把握に努めています。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体的拘束適正化委員会の設置、ユニット会、職員会議等をもってその機会としています。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	そういった要望や相談の実績はないが、身体的拘束等の要望があった際には随時家族様と話し合いを行い、理解・納得が頂けるようにしています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	内部研修や外部研修を通して理解できるようにしています。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	相談のあった際には他事業所や居宅、介護支援専門員等、各方面の専門職と連携を行い、支援できるようにしています。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	運営推進会議や行事企画を通して地域包括支援センターや医療連携相談と連携を図っています。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時対応マニュアルを作成しており、内部研修等で内容を共有、いつでも閲覧可能にしています。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	普段より異変の軽重に関わらず初期対応を徹底しています。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書、ヒヤリハット共に作成しており、発生時にはすぐに職員が周知出来るようにし、その場で検討を行い、再発防止に取り組んでいます。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	事故報告書、ヒヤリハットを用いて原因の分析、対策を検討し、必要に応じてユニット会等でも検討を行い、周知しています。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成しており、内部研修で対応方法について勉強し、それらをいつでも閲覧可能にしています。苦情の窓口、責任者を設置しており、苦情があった際にはマニュアルにのっとって対応するようにしています。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情の実績はないが、必要であればそのようにしています。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情の実績はないが、必要であればそのようにしています。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	苦情の窓口の設置をしており、運営推進会議に利用者様が参加できるよう配慮し、随時個別に聞き取りを行っています。	/	/	◎	職員は利用者や家族に、こまめな聞き取りや声掛けを行うことができおり、意見や要望を伝えることができている。利用者は、職員にいつでも、些細な事でも話すことができる信頼関係ができている。また、職員はユニットリーダーや管理者に、気軽に相談や提案ができる関係性も築けており、行事やレクリエーションなどのアイデアや意見が多く出されている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	苦情の窓口の設置をしており、運営推進会議に包括支援センターや民生委員を招待し、そういった相談ができるよう配慮しています。	○	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	運営推進会議で意見や要望など、苦情も含めた聞き取りを行い、苦情に関するフローチャートを掲示し、受付箱の設置も行っています。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	管理者と連携し、必要に応じて現場に足を運び、個別の機会を設けるなどで思いや意見の汲み取りを行っています。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	意見や提案のある場合は直接話し合いを行い、定期的にユニット会を開催し、参加できない場合でも意見が出せるように文書での参加が出来るようにしています。	/	/	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	職員全員で分担し、年に1回の自己評価を行っています。				自己評価は職員全員で話し合い、ユニットリーダーを中心に作成している。それぞれの評価項目について、丁寧で的確な自己評価の作成ができています。また、外部評価の結果は運営推進会議内で報告するほか、家族がいつでも閲覧ができるよう事業所内に保管している。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	作成した自己評価をもとに職員間の意識統一を図れるよう話をしています。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	前回地域交流の目標を立て、近隣施設との合同企画や紅葉や紫陽花見学などの季節に応じた外出支援を行っています。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議を利用して報告を行い、参加できないご家族様には閲覧できるように準備しています。	○	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	職員会議や運営推進会議にて行事企画の報告を行い、地域との関り等を確認しています。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	防災マニュアルを作成し、各ユニットで閲覧できるように整備し、定期的に勉強会を行っています。				定期的に、近隣にある法人の複合施設と協力して、合同での避難訓練等を実施している。訓練を繰り返すことにより、事業所内の災害への備えを強化しているところであるが、家族や地域住民には具体的な防災対策や訓練内容が伝わっていない様子である。今後は、防災訓練に家族や地域住民の参加を促すなど、工夫した取組を期待したい。万が一の災害発生時に備え、「実際にどのように避難するのか、どのような備蓄品を備えているのか、協力・支援体制の確保」など、現在の備えについて、地域住民等により詳細に周知できるような取組の検討を望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	マニュアルに基づき、夜間想定と日中想定での避難訓練、消火訓練、風水害訓練、地震訓練を行っています。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	設備点検票を使用し、施設設備の点検を定期的に行っている。また、内部監査を行うなど、備蓄や備品の確認も行っています。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	年に2回の避難訓練を行っているが、消防署の立ち合いや近隣施設との連携も含めて訓練しており、計画から反省まで合同で行っています。	x	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	他事業所との合同訓練を通して、消防署を含めて随時連携が取れるように取り組んでいるが、地域という観点からは十分とは言えません。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	民生委員や包括支援センターに協力して頂き、地域の皆様に鶴翠の取り組みを知って頂けるように発信し、来苑者には日々の活動を見て頂けるように広報誌の作成や、行事の写真等を見て頂いています。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	民生委員や医療連携室などの紹介で相談に来られることもあり、随時対応し、関連施設と連携しながら相談支援を行っています。		○	◎	地域に「ニコカク新聞」を配布していることもあり、地元の民生委員から介護等の相談が入り、対応した実績もある。相談が入った場合には、管理者とケアマネジャーが対応することとなっている。法人・事業所として、外国人技能実習生の受け入れの協力もしている。また、市担当者や地域包括支援センター職員との連携も取れており、運営推進会議等を活用して情報共有ができています。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	ボランティアや地域の皆様を招いての行事等、隣接施設と連携しながら交流の場を作っています。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	関連施設の介護員の受け入れを行い、お互いの介護人材の育成を図っています。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	近隣施設や民生委員、婦人会の皆様等と協力し、地域イベントとして行事を企画、実施しています。			◎	